「令和４年度　全国学力・学習状況調査の結果について

【富里南中学校】

令和４年４月１９日（火）に，小学校第６学年全児童，中学校第３学年全生徒を対象として，「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

１　生徒が受けた調査について

「国語」，「数学」，「理科」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm

２　本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕，〔思考力，判断力，表現力等〕の内容に基づき，全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数　学	学習指導要領における，「数と式」，「図形」，「関数」，「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理　科	学習指導要領における第１分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域，第２分野の「生命」を柱とする領域からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

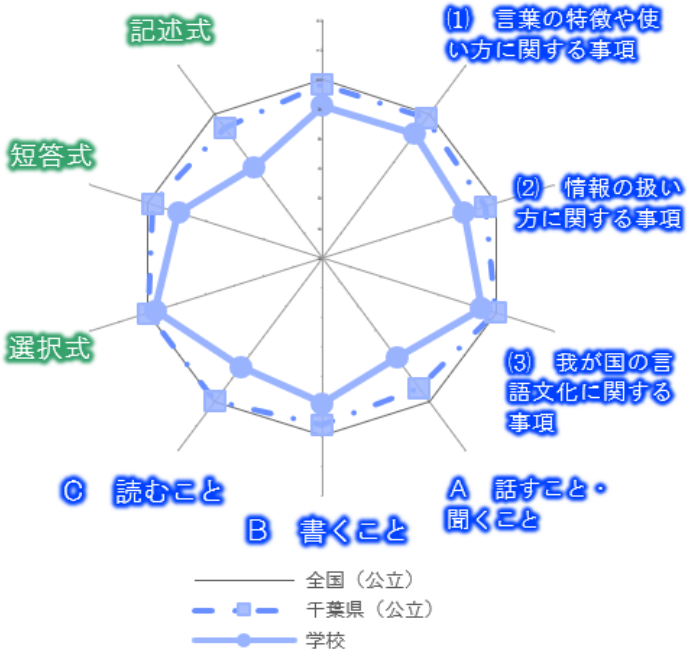
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○農林水産省のウェブページから，自分にとって必要な情報を選び抜き，自分の意見としてまとめ上げる設問や，知識及び技能の(２)情報の扱い方に関する事項において県の平均に近い得点を取ることができています。

○説明的文章のように長い文章であり，馴染みのない語句，概念が含まれた際には，その内容を読み解いていく力が充分ではありません。

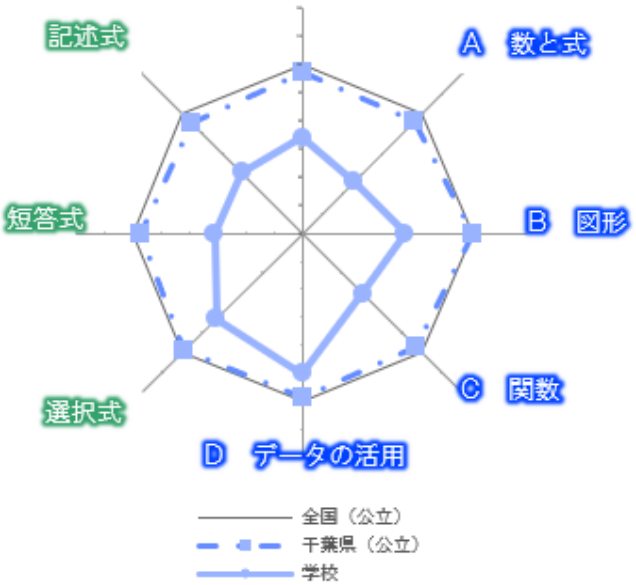
○選択式，短答式の問題では県の平均に近い正答率ですが，記述式の問題になると大きく正答率が下がっていました。

【改善方策等】

○日々の授業の中で教員や友人たちなどの周囲と共同して問題を解くことはできていますが，初見の問題を目の当たりにした際には困難があるため，初見の文章を多く読み，自力で問題を解いていく訓練を重ねていきたいと考えます。

○上記の特徴と現状において，記述式の問題に対して苦手意識があることが見られたため，授業や定期テストを通して長文を読み，その中から必要な語句同士をつなぎ合わせ，自分の言葉として表現する機会を多く設けることで意識を改善していきたいと考えます。

数　学



【特徴と現状】

○数と式の正答率が昨年に比べ県・全国平均を大きく下回っています。

○昨年に比べ，図形の正答率の県・全国平均との差が縮まっています。

○データの活用の「容器のふたを投げたときに，下向きになる確率を選ぶ」問題の正答率が県・全国平均を上回っています。

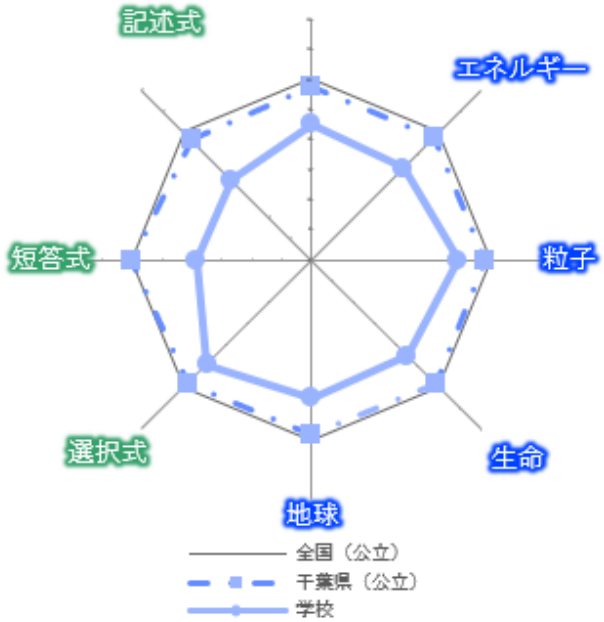
○「差が４である２つの偶数の和が，４の倍数になることの説明を完成させる」問題の正答率が，県・全国平均を大きく下回っています。また無解答も４０％近くおり，自分の力で解答することに課題があります。

【改善方策等】

○数と式の問題で「ｎが９のとき，どのような計算を表しているのか」を書く問題で，書くことができなかった・無解答だった生徒を減らす取り組みとして，普段の授業において，文字に値を代入して考える機会を増やし，代入の意味や方法の理解が深められるようにします。具体的には，１年生の文字に数を代入する問題の演習を多く行いたいと考えます。

○記述式問題の無解答を減らす取り組みとして，各単元で説明させる問題にかける時間を今まで以上に増やし，理解したことを互いに説明し合い学習が深められる指導を心がけていきます。具体的には，２年生の「式の計算」の単元で，式による説明をできるだけ時間をかけて行いたいと考えます。

理　科



【特徴と現状】

○全国平均と比較して，全体的に正答率が下回っています。

○“領域”や“評価の観点”，“問題形式”という分類の項目では，全体的に全国平均を５％程度下回っています。

○記述式の問題では無回答率が著しく高く，その結果，記述式問題全体の正答率は 41.6%にとどまりました（全国平均 53.5%）。学習内容をきちんと理解し，自分の力で表現することに課題があります。

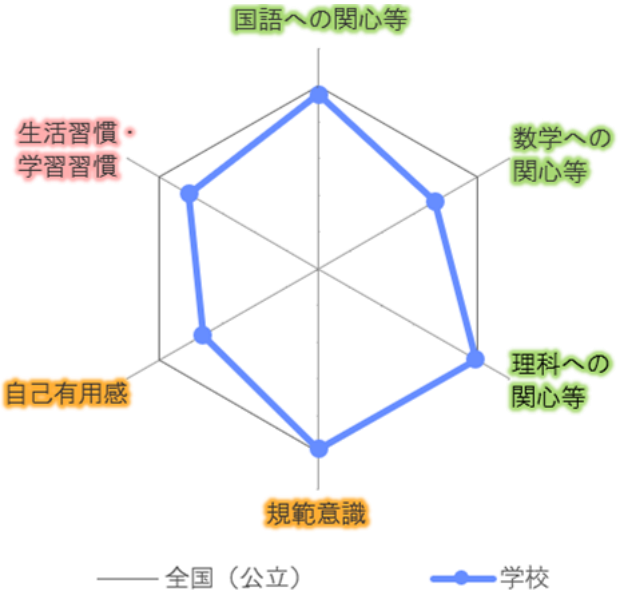
○「エネルギー」を柱とする領域の正答率は 34.9%にとどまり，全国平均を下回りました。この領域の中でも，目に見えない「力」について説明することや，矢印で表すことに課題があります。

【改善方策等】

○全体的に全国平均を５％程度下回っていること，その中で記述式問題の正答率が低いことの２点から，全分野の授業で考察やまとめを自分の言葉で書く機会を増やすことで，学習内容をきちんと理解し，自分の力で表現する力の定着を図ろうと考えます。

○「力」についての問題を中心に，「エネルギー」を柱とする領域の復習に取り組むことで，目に見えない「力」について説明することや，矢印で表す力の定着を図ろうと考えます。

（３）生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

○昨年度も多かった「普段１日当たりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」という質問に「４時間以上」と答えた生徒が３０％近くいました。県を１０％も上回っています。「３時間以上」が１８．６％いるので，合計すると半分近くの生徒が３～４時間毎日のようにゲームをしていると考えられます。家に帰ってから毎日のように３時間以上，スマホやゲームに時間をかけていては「勉強」や「睡眠時間」など，様々なところに弊害が出ると思われます。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して，当てはまると答えた割合が１６％でした。また，それに合わせて，「自分でやると決めたことは，やり遂げるようにしていますか」という質問も１０％でした。このことからも自己肯定感が低く，何かを「やり切る経験やチャレンジをしない」ことがわかりました。

３　まとめ

○「毎日，同じくらいの時間に寝ていますか」に対する回答を見ると，「していない，全くしていない」の合計が３７％となっていました。また，「朝食を毎日食べていますか」に対する回答を見ると，「していない，全くしていない」の合計が２６％となっていました。毎日規則正しい生活を送ることが課題となっているので，家庭と学校が連携して規則正しい生活習慣が身につくように取り組む必要があります。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」に対する回答を見ると，「はい」と答えた割合が８％と県・全国のおよそ半分となっていました。この状況が少しでも良くなるように小中連携の取り組みとして「小中９年間を見通した家庭学習の手引き」の作成等を行っています。子ども達が自主的に学習に取り組み，学力向上が図れるようにしていくことが求められます。引き続き，各ご家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。